「コロナ感染症対策　初動72ｈ（3日間）の手引き」作成

クラスターの経験を活かして

社会福祉法人賛育会　東海清風園
介護主任　大村拓智
介護員　山田愛子

施設概要

- 海の幸・山の幸の多い自然豊かな御前崎市の市街地の中に立地し、社会福祉法人賛育会「隣人愛」の実践を理念として、地域の皆様とともに70年の歩みを続けています
- 特養（従来型128名・ユニット型42名）、短期入所（ユニット型8名）、通所介護（池新田34名・佐倉29名）、認知症対応型通所介護（池新田20名・佐倉12名）

はじめに…

- 5類移行となったコロナ感染症だが、全国各地で今現在も猛威を振るっている

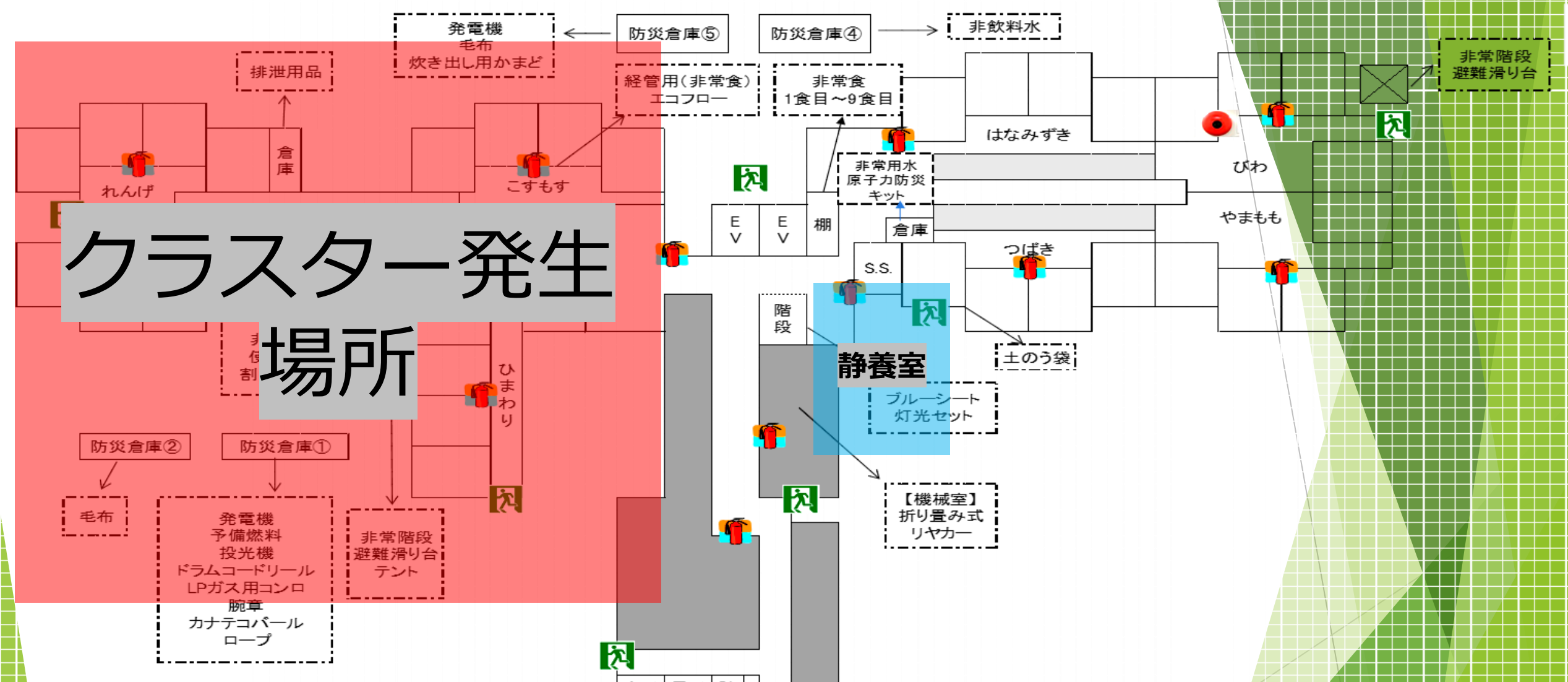
今までは…

スタッフ室
この自動ドアは
非常用電源で
作動します。
通常時は手動で
開閉してください。
注意
自動
ドアに
ちゅうい

きっかけは…

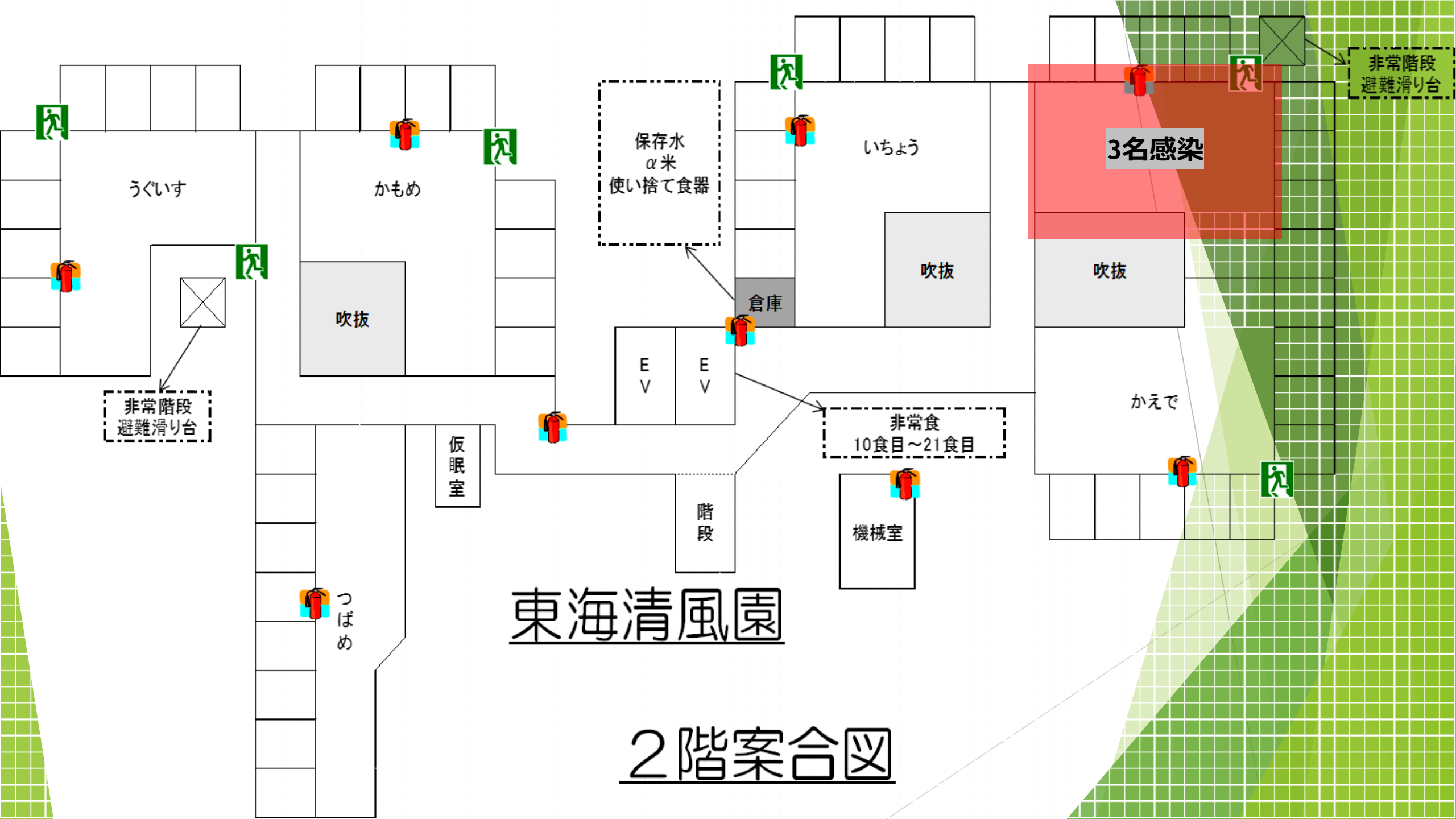
- 昨年度12月～１月末までにコロナ感染症による大規模なクラスターが発生したことが大きな要因となっている

クラスター発生場所



東海清風園

１階案合図


東海清風園
2階案合図
3名感染
非常階段
避難滑り台
保存水
α米
使い捨て食器
うぐいす
かもめ
いちょう
かえで
つばめ
吹抜
吹抜
吹抜
倉庫
E
V
E
V
仮
眠
室
階
段
機械室
非常食
10食目～21食目
非常階段
避難滑り台

クラスター後に手引きの作成に取り掛かった！！

まずは振り返りを行った

①いままで指揮をしていた職員が軒並み感染し、経験の浅い職員が残ったことによる現場での混乱

②どこに感染症の物品があるかわからず、そろえるまでに時間がかかったこと
(ゴミ箱や綺麗なフェイスシールドなど)

③感染拡大を防ぐために館の自動ドアの閉鎖方法の仕方を知っている人がいなかったこと

④ゴミやリネン類の取り扱い方が人によって違ったこと

必要なことは…

①感染対策物品の準備
(どこに何があるか、何が必要か)

②ゾーニングの考え方
(コロナが発生した場合どこに隔離するか、またレッド・イエロー・グリーンの違いは何なのか)

③使い捨て食器がどこにあるか

④ゴミ・リネン類の取り扱い方

etc…

目次

感染対策物品の準備・・・・・・・2

ゾーニングの考え方・・・・・・・3～

感染対応期間・・・・・・・・・・10

換気・・・・・・・・・・・・・・11

消毒・手洗い・・・・・・・・・・12

ガウンの着脱・・・・・・・・・・13

食事の提供方法・・・・・・・・・14～

介助方法・優先順位・・・・・・・18～

人物誤認を防ぐために・・・・・・22

ゴミの出し方・・・・・・・・・・23

衣類・リネンの取り扱い・・・・・24

その他の業務・・・・・・・・・・25

職員共有場所の感染対策・・・・・26～

感染対策物品の準備

物品	必要目安数（1か所）	保管場所
袖付きガウン	30～45枚	パティオ倉庫
排泄用手袋（ブルー）M・L	各2箱	
マスク	4箱	
防護マスク	2箱	
ヘアキャップ	2箱	
フタ付きゴミ箱	2	
45リットルゴミ袋・白ビニール袋	各2	
ペーパータオル	4	
フェイスシールド（レッドゾーン用）	2	
フェイスシールド掛け具	1	
エタワイパー（エタノールウエットティッシュ）	2	ボランティア室
消毒用アルコール（ラビジェル	2	
アルコールスプレー（空）（エタノール）	2	
ディスポ食器	必要に応じて	※非常食マニュアル掲載
感染専用のお盆		
非常食		
鏡		
（※居室ごと）体温計・パルスオキシメーター・血圧測定器	各１	
ガウンテクニックの手順書		※13ページに掲載

#7045
SynGuard Nitrile Exam Gloves
INTCO
Conlily

ゾーニングの考え方

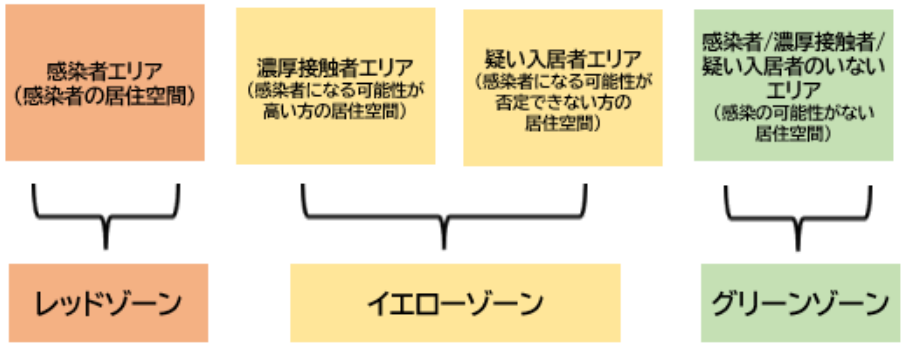
＜コロナ陽性者が発生した場合＞

- 静養室に隔離できる場合は、静養室に移動する。

  このとき、同室入居者は濃厚接触者となり、この居室をイエローゾーン（感染疑い）とする。

- 静養室に隔離できない場合は、居室内をレッドゾーンとする。

＜ゾーニング（汚染区域と清潔区域を分ける）＞



それぞれのエリアは、誰が見ても分かるように、テープやパーテーションを用いて、明確に区分けします。

ゾーン	定義	対応方法
レッドゾーン	・陽性者がいる居住空間	・居室対応 ・入浴中止 ・リハビリ中止 ・食事は使い捨て ・ゴミは感染対応
イエローゾーン	A）陽性者の居た居住空間	
	B）同室ではないが、陽性者と入浴時間や食事席が同じなど、感染が疑われる入居者がいる居住空間	
	C）職員が陽性になった場合、接触したと思われる入居者がいる居住空間。接触したと思われる入居者が多数で不特定の場合、ユニット全体が対象となる。	・ユニット全体を居室対応、入浴中止とする ・リハビリは要検討 ・食事は要検討 ・ゴミは通常通り
	D）レッドゾーン入口（居室外）でPPEを装着するエリア	
グリーンゾーン	・陽性者とは全く別の居住空間	・すべて通常とする
	・陽性の隔離期間（7日間）が過ぎ、感染の可能性がない入居者の居住空間	
	・濃厚接触の健康観察期間（5日間）が過ぎ、抗原検査の結果、陰性が確認された入居者の居住空間	

換気

＜レッドゾーンの換気＞

空気の流れを確保し、室内からウイルスを除去する目的。

①居室の扉は閉める。

②居室換気扇は24時間ONにする。

1日のうち、時間を設けて居室内の窓を開ける。

（日中はできる限り常時窓を開けておく、夜間は外気温や防犯の観点から適宜窓を開ける）

③流れが悪い場合は、扇風機を準備し、室内窓際に設置、外に向けて送風する。

＜オゾン器の取り扱い＞

隔離期間が終了した後、ウイルス除去を目的に居室内でオゾン器を作動する。

＜物品保管場所＞

物品	保管場所
扇風機	管理課に手配する、 不足する場合は脱衣室のものを使用する
オゾン器	こもれび

消毒・手洗い

＜手指消毒の原則＞

- 接触感染を防ぐため、「1ケア1手洗い」もしくは「1ケア1手指消毒」を徹底する。
- アルコールでの手指消毒の場合、アルコールが手のひらに溜まるほど（3ml）つける。
- 使用するアルコールの濃度は70%以上95%以下のものとする。

レッドゾーン・感染対策で使用する

日常の予防で使用する

- PPE着脱場所には必ずアルコールを設置する。
- アルコール容器には「使用年月日」を明記する。

＜ベッド・車いす等の消毒＞

- 陽性の隔離期間解除後は、ベッド・車いす等からの接触感染リスクは無いと考えるが、清掃の観点からアルコール消毒を実施する。（隔離期間：10日＝7日（一般的な隔離期間）＋3日（72h）と考え方）
- 陽性者との最終接触から3日（72h）経過するまでの間、やむを得ず居室移動等を行う場合は、ベッド・車いす等のアルコール消毒を確実に行う。

ゴミの出し方 【レッドゾーンのゴミ】

<残飯・容器・その他可燃ゴミ>

①１食分ずつ白ビニール袋に入れて縛る。

②フタ付きゴミ箱にポリ袋を２重にしてセット、ゴミを出す時は１つ縛りをする。（両端縛りはしない、中身はポリ袋８分目まで。中の空気が戻らないように）

③　②をゴミ袋に入れて縛る。

④ゴミ袋表面にアルコールスプレーを吹きかける。

⑤指定場所へ出す。（防火倉庫）

（3日（72ｈ）経過後、ゴミコンテナに運ぶ）

3日（72ｈ）経過後、コロナウイルスは死滅するので、以降は通常のゴミの取り扱いができるという考え方。

<オムツ・エプロン>

①オムツは１人ずつ白ビニール袋に入れて縛る。

②フタ付きゴミ箱にポリ袋を２重にしてセット、ゴミを出す時は１つ縛りをする。（両端縛りはしない、中身はポリ袋８分目まで。中の空気が戻らないように）

③ポリ袋に「コロナ」と表記する。

④ポリ袋表面にアルコールスプレーを吹きかける。

⑤指定場所へ出す。（防火倉庫）

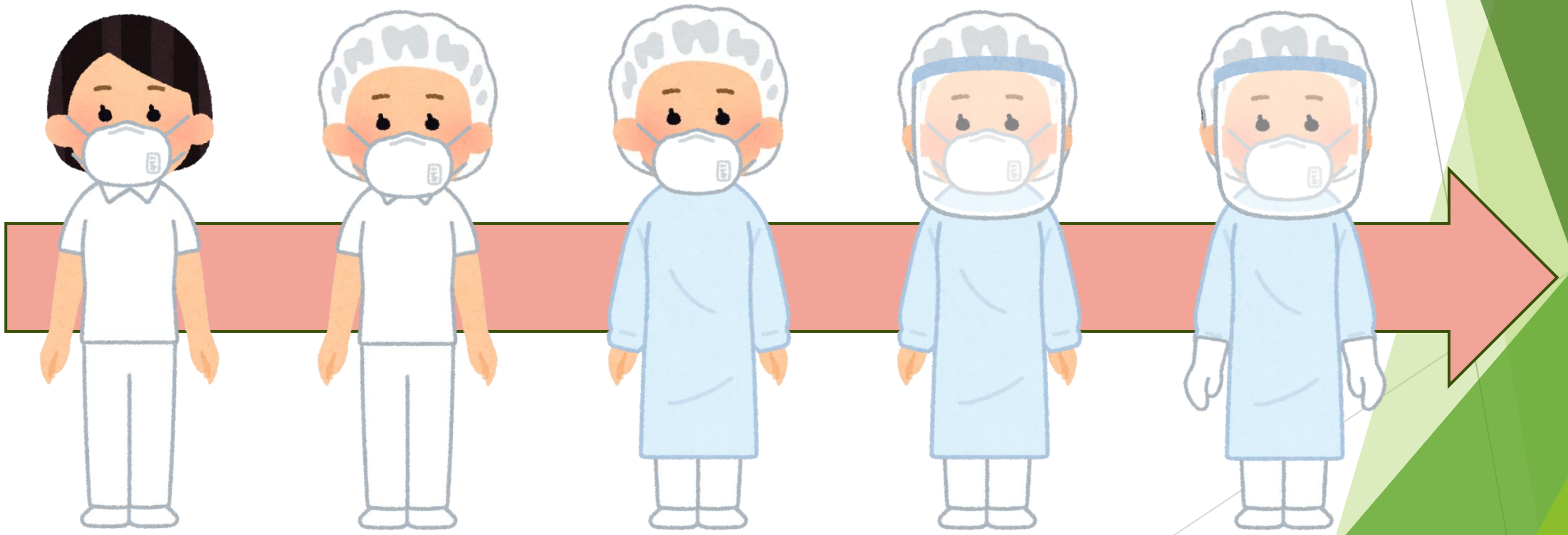
（３日（72ｈ）経過後、　　コンテナに運ぶ）

1つ縛り

そして完成へ

完成後に各フロアに配布
介護課内で勉強会実施

- 今年度6月に感染症の勉強会を各部署で実施
- 手引きを配布し、実際の物品場所・PPEの着脱方法の再度確認を行った



活動の成果

- 今年度6月中旬頃、職員1名のコロナ陽性を確認した際に実際に使用した

今後の課題

- 実際に入居者にコロナ感染症が発症してから見えてくる細かい気づきや変更、5類以降の対応に柔軟に対応していく

- 手引きの更新を随時行い、実際に手引きを使用しながらロールプレイを行う

- ご清聴ありがとうございました